

出てくる鉄筋をブツブツ切る

坂戸工作所④

坂戸工作所の坂戸誠一は早速、英国製れんが壊し機からヒントを得たコンクリート圧砕機を油圧シヨベルに装着して実験を繰り返した。

鋼板製のベンチのような圧砕部でコンクリート壁を挟んでぎゅっとつぶすと「バカン バカン」とうまい具合に壊れた。しかし、新たな問題が見つかった。鉄筋の入っている壁は壊れにくく、どうしても鉄筋が残って、作業がはかどらなかつた。

油圧解体機誕生④

断機能付きのコンクリート圧砕機の原型ができた。試作機が解体業者に引き渡され、解体現場に投入された。まず、トンビのくちばしのような形の圧砕部でビルの外壁や床をつつき、一カ所穴をあけ、そこからコンクリートをつぎ壊しながら、出てくる鉄筋もブツブツ切っていく。解体作業の効率も大幅にあがり、解体業者がよろこんだ。

市販することになり、商品名はコンクリート壁をベンチのように切り裂き、壊すことから「ベンチャー」とした。これに小割れたコンクリートを粉々に砕く「パクラ」と組み合わせた。解体業者の間で評判になった。注文もはちまちま入るようになった。父で、社長の正四郎がいった。「おまえ、そんなはさみのおもちやのようなもの作って。そんなものうちでやる仕事じゃねえ」



80年ごろの油圧解体機「パクラ」。先端部でコンクリート塊を掴み砕いた

北野靖志の「元気が行く」

現場リポート・元氣印経営の秘密

《坂戸工作所》
社長＝坂戸誠一氏
住所＝千葉市花見川区
☎043・259・0131
業種＝解体機械製造業
資本金＝5720万円
設立＝1945年4月
従業員数＝30人
年間売上高＝9億円
(2002年度見込み)

「おまえは能力がないうえ、お客さんと一緒に考えて考えた商品だから少しはやっていい。でもなあ、こんなものは簡単だからすぐ、後の人がまねしたものを作ってくるぞ。だから百台ぐらい売ったらやめたらどうだ」

ある新聞が「ベンチャー」を鉄筋コンクリートでも簡単に切り裂く解体機械が開発されたと紹介した。

この記事が出るや、コマツをはじめ日立建機など日本中の建設機械メーカーから販売代理店契約の申し込みが同社に殺到した。誠一は有頂天だった。

〓文中敬称略〓
(論説委員長)